

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：活動分析	
日付：11月 3日 （ 月 ）曜日、セッション時間： 15：00 ～1700	
司会者名（所属）：太田勝敏(東洋大学)	
討 議 内 容	セッション全体： 英文論文2件、日本語論文2件、いずれも Activity Analysis に関するものであった。 最後のセッションということで会場の参加者が少なかったのは残念であったが、質疑は活発であった。
	（発表番号） 発表者名（所属）：（207）Zhuo WANG(王 卓)（広島大学） —新たな分析モデルによる説明力の改善は評価するが、その土木計画学上の意義が不明確。 —アストラムラインはすでに開業していることから提案モデルの検証ができるはずで、それによってこのモデルの有用性がしめせるのではないか。
	（発表番号） 発表者名（所属）：（208）力石 真（広島大学） —分析目的により適切な活動分類が異なるが、この分析の文脈・目的が不明確。時間価値ということなら開始時間での分類は不適切。 —無回答データの除外による情報が失われることは問題。
	（発表番号） 発表者名（所属）：（209）Ahmed Ibrahim Mosa(東京大学) —発表時間がオーバー —ICT利用と交通の関係について新たな詳細な調査を行った点は評価できるが、データの信頼性に注意が必要。 —ICT技術へのアクセス性の分析と合わせること。 —イスラム社会特有の交通、ICT利用の制約などへの配慮が必要。
	（発表番号） 発表者名（所属）：（210）坂本将吾(中央大学) —家庭でのエネルギー使用については、環境省助成で詳細な研究があり参考になろう。 —生活スケジュールといってもマクロに集計したものだが、それに対応したエネルギー使用原単位については今後の課題である。